

盛地申5号「電気部門の改革2022」に関する申し入れ交渉⑤

【技術センターにおける業務の簡素化】

15. 小規模・少額工事の適用範囲拡大等工事に関わる業務の簡素化施策について、課題を明確にし各々のスケジュールと、想定されるメリットとデメリットをそれぞれ明らかにすること。また、適用拡大に伴っての要員効果をそれぞれ明らかにすること。

回答 工事の設計については、従来からの精緻な考え方による内容が多く時間を要していることから、効率的で生産性の高い業務を行っていくため、制度の見直し等により簡素化を推進していく。
なお、業務の運営に必要な要員は、確保していく考えである。

【確認事項】 **一般工事(昨年ベース)が2割減少見込み。**

- ・順次実施し、現時点でのメリットは簡易契約方式でタイムリーな工事発注が可能になった。
- ・今後の課題は金額拡大による分割発注の防止や設計確認が絡む工事も可能となったことから法令違反の防止。

16. 導入にあたっては、試行期間を設定し検証と改善を実施したうえで本実施とすること。
また、本実施をするまで要員削減は行わないこと。

回答 技術センターにおける業務の簡素化については、社員の意見等を集約しつつ進めていく。
なお、業務の運営に必要な要員は、確保していく考えである。

【主な議論】 **導入後の問題点を集約し改善点は改善していく考えを確認!**

- ・単金化、旗揚げシステム、統合作業乗率の集約、パートナー会社技術支援制度、信号技術者認定制度の適用拡大について項目ごとの導入時期、内容、想定される課題について機論。
- ・単金化については「派遣（交通費）の単金化」は実施、パートナー会社技術支援制度は3/16～9/15まで試行し意見集約する。

17. 盛岡信通技術センターの「ネットワーク科/無線設計科」を「情報通信設計科/情報通信保全科」に再編するにあたり、想定されるメリットとデメリットを明らかにすること。また、時期、運用・要員体制、具体的業務内容と教育について明らかにすること。

回答 通信部門は有線と無線の融合した技術を用いた設備の導入が進んでいることから、情報通信技術全般に対応できるグループ体制とすることとし、工事設計グループと保全グループへの再編を実施する。

【主な議論】 **規模感は現在の「ネットワーク科/無線設計科」と同等。**

- ・情報通信技術の進歩により有線、無線の境が無くなってきている中で全体的に順応できるメリットがある。
- ・通信技術のプロを育成する為に基本はまず保全科で学び、設計科や融合箇所へという教育イメージを確認。

18. パートナー会社技術支援の具体的フローを明らかにすること。また直轄の技術力維持・向上のための具体的歯止めを明らかにすること。

回答 本制度は、施工ノウハウを要する技術的に高度な工事を対象とし、技術力の維持・向上につながると考えている。

【主な議論】 **技術継承の為の制度であるという柱がぶれないようにしていくことを一致!**

- ・技術力の維持向上の為に積極的に活用すべきものである考えであり、1人3回まで可能。
- ・設計する人が何故ノウハウが培われないのかの本質にも踏み込んで対策すべき事を指摘!